

# Via Latina 22



マリア会創立200周年  
2017年

総本部よりのお知らせ - マリア会

## マリアニスト修道生活200周年記念式典

“その時が来ました”。マリア会の誕生日と考えられていることについてシャミナード神父からジャン・バプティスト・ララン師に言われたこの言葉は、2017年10月2日、マリア会創立200周年のまさにその日、霊生局長、アンドレ・フェティス師によってなされた講話のテーマでした。実際、9月30日から10月2日に渡る週末に、マリア会修道者と汚れなきマリア修道会の修道女、アリアンス・マリアルと信徒マリアニスト共同体の代表者たち、家族と友人の皆さんが、フランスのボルドーに集まり、“特別な時”として明確に体験し心に刻みました。少人数男子グループがマリアに奉仕する修道生活を進んで受け入れるために自らを捧げた時に、シャミナード神父によって最初に発せられた喜びが祝われ、今、200年後、マリア会創立がスタートしたまさに同じ場所で喜びが祝われました。創立者の精神は、私たちの聖母マリアの慈愛の眼差と、ボルドーに集まった皆さんと



荘厳なごミサの参加者に挨拶するマリア会総長マヌエル・コルテス師  
ボルドーのカテドラルにて



祈りと意向によって時を同じくして心で結ばれた世界中のマリアニストの祈りと共に、明らかにそこに存在していました。

ボルドーでの式典は9月30日、土曜日午後に始まりました。フランス全土と他の多くの国から集まった人々が福者シャミナード神父のマリア会創立のセンターであり住居でもあったマドレーヌ聖堂に到着しました。これら巡礼者たちは、チェックインした後、マリア会、創立者、

ボルドーのカテドラルにある祭壇の両脇に飾った  
マリアニストが働く国々の国旗





2017年10月2日に行われたごミサ

でどの様にして思い浮かべることが出来るでしょうか？確かに、当時の服装をした演技者、独創的な台詞、素晴らしい音楽的才能で演じられたこの“ショー”は、短い時間でそれら全てを生き活きと表現していました。グラン・ルブラン校の生徒たちは、卒業生とボランティアの人たちと協力して数百人の出席者を喜ばせ、式典の最初の日を終えました。

10月1日、日曜日、2日目はボルドーカテドラルでのミサで始まりました。このミサはボルドーのジャン・ピエール・リカール枢機卿が司式し、マリア会総長マヌエル・コルテス師とフランス管区副管区長ジャン・エドゥアール・ガチュアン師が主共同司式者となり、他30名もの共同司式者が加わりました。カテドラルはマリアニストと一般信徒のみならず、祈り、喜びそして神への感謝によって満たされていました。更にまた、グラン・ルブラン校の聖歌隊の若者たちが私たちに素晴らしい聖歌を聞かせて



マドレーヌ教会について説明するアンドレ・フェティス師

および彼の協力者たちと関わりのある近くの場所を訪れる機会がありました。最初の全体の集まりは、マドレーヌ聖堂での夕べの祈りでした。次いで聖マリア・グラン・ルブラン校へバスで移動し、全員が学校の料理担当者によって準備された食事でもてなしを受け、その後、学校の大きな聖堂での“ショー”が披露されました。

創立の歴史、その歴史を作った人々、そして私たちのカリスマの最初の具体化など、これら全てを、一回の上演で、祝賀のかたちでまた人を惹きつけるやり方



メリバ管区の修練者及び誓願者

くれました。リカール枢機卿はマリアニストの使徒的なダイナミズムについて話されました。マリアニストが存在する全ての国の国旗がミサの始めと終わりに行列を先導しました。諸国の国旗は、私たちの宣教活動の広がり、この日に、全ての人がこのボルドーでの式典に祈りによって霊的に結ばれているという事実を思い出させてくれるものでした。ミサの奉献の間に、SMとFMIの総長評議員会のメンバーは、“彼が言うことを全て行いなさい”とのマリアの招きに応え、マリアニストの使命に私たち自身を捧げ尽くす象徴として、それぞれの水差しから一つの大きな壺に水を注ぎ入れました。

ミサ後、グラン・ルブラン校で素晴らしいお祝いの会食が持たれました。その後、霞のかかった曇り模様の天気でしたが、福者シャミナード神父と多くのフランスのマリア会員の墓への墓参には問題はありませんでした。この墓参は、私たちの先駆者たちを思い起こし、彼らの生涯とその宣教活動への深い感謝のうちに集まるお恵みの一時でした。この日は、グラン・ルブラン校の聖堂に戻り、マリアの聖務日課で締めくくりに、その後夕食会でした。



200周年祭のごミサ後、祝賀会に臨むリカル枢機卿  
マリア会・汚れなきマリア修道会の両総長たちとともに

3日間の最後の日、マリア会創立200周年の当日である10月2日は、マドレーヌ聖堂での朝の祈りで始まり

ました。この日は、マリアニスト家族の奉献した修道者のメンバーに特別に用意されました。マリア会、汚れなきマリア修道会、アリアンス・マリアルそして信徒マリアニスト共同体から約85名の会員が参加しました。この祈りの直ぐ後に、マリア会のアンドレ・フェティス師がこの200周年記念号の最初に述べた講話を行いました。彼は、この“時”、この“聖霊の時”、および創立者のビジョンに従って一致して生きる召命の重要性について、考えを分かち合われました。彼は創立者と初期の会員から数多くの引用を提供されました。（この講話のテキストは[www.marianist.org](http://www.marianist.org)で入手可能です）

最後に、この式典全体を締めくくって、マリア会総長、マヌエル・コルテス師は守護の天使の祝日のミサを司式しました。その説教で、彼は、マリアの使命、教会、および魂の救いに奉仕するに当たって私たちがマリアニスト修道者としての私たちの召命を具体化する時、修道会としての、また修道者個人としての私たちの“記憶、希望、識別”の有する重要性について話されました。ミサの中で、出席していたマリア会の全終生誓願者が荘厳で感動的な典礼で自分たちの誓願を更新しました。マリアニストのすべてのうれしい祝賀会のよう

に、ミサに引き続いて、身体の滋養のための兄弟的な集まりが用意されていました。マドレーヌ共同体が喜びの昼食会のために全員を食堂へ招き入れました。



福者シャミナード師の部屋を訪れるマリア会員たち

“この時”、この200周年という私たちの共同体の祝賀の機会は、この1年半に渡る他の地域での200周年祭とともに、大きな喜びと励ましの時で私たちを満たしました。私たちが授かった召命に、私たちが遺産として受け継いだカリスマに、そして私たちに託された使命に忠実であるよう、私たちの創立者である福者アデルとシャミナード、そして全ての先駆者たちに、とりなしを願いましょう！



美しい秋のボルドー



オルガン奏者及び作曲家である  
マリア会員パトリック・ジロー師



マドレーヌ教会で10月2日にささげられた  
守護の天使の朝課



200周年祭のごミサ後の祝賀会での  
特製“バースディ・ケーキ”



マドレーヌ教会の脇聖堂にある  
福者シャミナード師の聖遺骨を前にして祈る



多くのフランス人マリアニスト修道者が眠る  
墓前に祈るために集う巡礼者たち